

禪

出て物いふ時によ、といふ音の有ものなりよ、と鳴といふ義なるべし、よだれの意にや、

〔倭名類聚抄三〕禪 張揖云、禪、難天二音、多都岐、舌不正也、

〔箋注倭名類聚抄二〕按之多都岐見源氏物語朝顔卷、今昔物語、所引文、未知出典、按玉篇禪言不

正廣韻同、此舌蓋言字之譌、

〔伊呂波字類抄人體〕禪シタツキ

〔增補下學集支體〕禪延舌不也

〔倭訓栞前編十一〕略 玄たつき中

倭名抄に禪を訓せり、舌不正也と注せり、源氏にもさすがに

玄たつきにてと見えたり、

〔源氏物語種二十〕その世のことは、みなむかしがたりになり行を、はるかに思ひ出るもこ、ろぼそ

きに、うれしき御こゑかな、おやなしにふせるたび人と、はぐ、みたまへかして、よりゐたまへる御けはひに、いと、昔思ひ出つ、ふりがたくなまめかしきさまにもてなして、いたうすげみにたるくちつき、思ひやらる、こはづかひの、さすがに、玄たつきにて、うちざれんとは猶おもへ

り、

〔新撰字鏡口〕延 要安反、凡口水也、液也、唾也、與太利、又豆波志留、

〔倭名類聚抄三〕鼻 唾 考聲切韻云、唾、湯臥反、和名豆波岐、口中津也、

〔箋注倭名類聚抄二〕鼻 神代紀、天智紀、醫心方、同訓、新撰字鏡、液訓、豆波支、延訓、豆波志留、中慧琳

音義一引同、再引津下有沫字、説文、唾、口液也、

〔類聚名義抄口〕二 唾吐臥反、和タ、ツハキ

〔伊呂波字類抄人體〕唾 ツハキ 唾 延已上同

〔下學集支體〕唾 ツハキ

唾